

競技注意事項

2025 県中学通信大会

1 本大会は 2025 年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会要項によって実施する。

2 アスリートビブス（ビブス）について

- (1) ユニフォームの胸、背に確実につける。跳躍競技は胸または背につけるだけでもよい。
- (2) 800m以上の距離に出場する競技者には、写真判定用の腰ナンバー標識を配付する。
ランニングパンツの右横やや後方に、そのままの大きさで明確に数字が読めるようにつける。
- (3) 直線種目において逆走を行う場合は、腰ナンバー標識を左横やや後方につける。
- (4) 腰ナンバー標識はフィニッシュ後、直ちに係（ゴール前方スタンド側）に返却する。

3 ウォーミングアップ場について

- (1) ウォーミングアップは、レクリエーション広場を最終種目の招集開始時刻まで使用できる。
また、競技に支障の無い範囲で、瑞穂北陸上競技場を使用してもよい。ただし、競技に支障があると判断した場合には、使用に関して競技役員から指示を行う。
瑞穂公園内や山崎川沿いの道路、陸上競技場周辺の道路の使用は禁止する。特に陸上競技場北側住宅地内の道路の使用は厳禁とする。
- (2) 投てき種目は、競技開始前に各ピットで競技役員の指示により行う。レクリエーション広場、近隣の公園、競技場周辺等では投てき練習は絶対に行わない。
- (3) 大会開始前のウォーミングアップは、大会の準備に支障のない範囲で、瑞穂北陸上競技場を使用できる。ホームストレートや競技が行われる場所については、**競技開始時刻の 10 分前から使用を禁止する。**

4 招集について

- (1) 招集所は、200m スタート付近倉庫に設ける。
- (2) 招集は本人が行い、時間に遅れたものは棄権とみなして出場を認めない。
- (3) 招集開始時刻及び招集完了時刻は、当該競技開始時刻を基準とし、次のとおりとする。

	招集開始	招集完了
トラック競技	30 分前	20 分前
フィールド [*] 競技	40 分前	30 分前
棒高跳	70 分前	60 分前
混成競技	1 種目目は他の競技種目と同様に招集所で行う 2 種目以降はトラック 15 分前現地 フィールド 20 分前現地 ※2 日目についても、一種目目は招集所で行う。	

- (4) リレーのオーダー用紙は、**招集完了 60 分前までに招集所に提出する。**用紙は招集所に用意する。
- (5) 他の種目に出場しているなど特別な事由がある場合、代理人による招集を認めるので競技者係主任（招集所）に事前に申し出る。

5 競技場への入退場について

- (1) 入退場は係の指示に従い、北側または南側の出入り口より入場することができる。
- (2) 出入口でアスリートビブスを見せ、入場すること。再入場も同様である。

6 レーン・試技順について

- (1) トラック競技のレーン、フィールド競技の試技順は、プログラムで示す。
- (2) 決勝のレーンは、主催者において公平に抽選し、WEB 記録速報、および正面出入り口付近に掲示する。
- (3) 欠場者のレーンはあける。
- (4) 走高跳、走幅跳の 1 組は A ピット、2 組は B ピットで競技を行う。

7 トラック競技の次のラウンド進出の決定について

- (1) タイムによる次のラウンドに進む出場者の決定について、同記録がありレーン数が不足する時の処置は、写真判定主任が 0.001 秒の実時間を判定して出場者を決定する。それでも決定できない時は抽選とする。（競技規則 TR. 21）
- (2) 抽選は、番組編成員が該当者をアナウンスにより招集して行う。アナウンスしてから 10 分以内に本部へ集合する。
- (3) 進出決定者は、アナウンスおよび、WEB 記録速報で発表する。
- (4) A B C 決勝および A B 決勝を行う種目について
「0 着 + 1 6 (2 4)」の種目は、予選記録の上位 8 名で A 決勝、9 番目～1 6 番目の 8 名で B 決勝、1 7 番目～2 4 番目の 8 名で C 決勝を行う。（本大会は、全日本中学校陸上競技選手権大会の予選会のため、資格記録順に各組を編成することとする。）
※いずれにおいても、A 決勝進出者が決勝を棄権しても、B (C) 決勝から A (B) 決勝への繰り上げは行わない。

8 競技について

- (1) トラック競技は、競技規則 TR16 6.7 により、不正スタートをした競技者は 1 回目で失格とする。
- (2) A B C 決勝 (A B 決勝) を実施する種目は、A 決勝→B 決勝→C 決勝の順に行う。
- (3) トラック競技の直線種目で逆走を実施する場合は、該当種目の 1 組目の競技開始時刻 1 時間前までに決定し、アナウンスや大型映像で連絡する。
- (4) フィールド競技の招集後競技開始前の練習は、審判員の指示によって行う。
- (5) 予選通過標準記録について
フィールド競技の予選通過標準記録は次の通りとする。

	走高跳	棒高跳	走幅跳	砲丸投
男子	1m85	4m00	6m60	13m30
女子	1m60		5m40	12m50

- (6) 上記の種目で予選通過標準記録を超えた者が 1 2 名に満たなかった場合、決勝進出者は予選成績により追加補充される。同記録の競技者は、競技規則 TR25. 22 および TR26. 8 を適用する。
- (7) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記のとおり。状況により変更することがある。

予選	練習		1	2	3	4	5	6	通過記録
男子走高跳	1m55	1m75	1m60	1m65	1m70	1m75	1m80	1m85	1m85
男子棒高跳	フリー		3m00	3m20	3m40	3m60	3m80	4m00	4m00
女子走高跳	1m35	1m50	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m60
女子棒高跳	フリー		2m00	2m20	2m40	2m50	2m60	2m70	以後10cm

決勝	練習		1	2	3	4	5	6	
男子走高跳	1m65	1m79	1m70	1m73	1m76	1m79	1m82	1m85	以後 3cm
男子棒高跳	3m00	3m60	3m20	3m40	3m60	3m80	3m90	4m00	以後10cm
女子走高跳	1m40	1m54	1m45	1m48	1m51	1m54	1m57	1m60	以後 3cm

- (8) 走高跳・棒高跳の練習は 2 つの高さを時間で区切って行う。競技者は、その時間内で競技役員の指示のもと自由に練習してよい。
- (9) 第 1 位決定の場合のバーの上げ下げは、走高跳では 2 cm、棒高跳では 5 cm とする。
- (10) 棒高跳競技者は「棒高跳支柱位置申請」を競技場所で口頭で行う。
- (11) 混成競技の走高跳のバーの上げ方は、下記のとおりとする。状況により変更することがある。

混 成 競 技			練習		1	2	3	4	5	6	
中 学	男 子	走高跳	1m35	1m60	1m40	1m45	1m50	1m55	1m58	1m61	以後 3 cm
四 種	女 子	走高跳	1m15	1m35	1m20	1m25	1m30	1m35	1m38	1m41	以後 3 cm

※練習は 2 つの高さを時間で区切って行う。競技者は、その時間内で競技役員の指示のもと自由に練習してよい。

9 競技用器具について

- (1) 競技に使用する器具は、すべて主催者が用意したものを使用する。
ただし、棒高跳用ポールは、個人所有のものが使用できる。

- (2) フィールド競技の助走に使用するマークは主催者が用意する。2個まで使用できる。また、サークルから行う投てき競技は、マーカーを1個だけ使用できる。走高跳はテープを持参して使用する。
- (3) リレーのマークは主催者で用意する。ただし、競技規則に適合するものであれば、各学校で用意したマークを使用できる。

10 競技用シューズの規定について

- (1) スパイクピンの長さは9mm以内。ただし、走高跳・やり投は12mm以内とし、スパイクピンの先端近くで少なくとも長さの半分は、4mm四方以内でなければならない。スパイクピンの数は11本以内とする。
- (2) 使用するシューズについては、競技規則TR5.2を適用する。
- (3) 規定外シューズ使用者の扱いについては「失格扱い」とする。
競技前に確認した場合は、そのシューズの使用を認めない。招集後に規定外のシューズの使用が確認された競技者は、失格の扱いとする。ただし、四種競技及び砲丸投についてはこの限りではない。

11 表彰について

- (1) 各種目8位までの入賞者（チーム）には賞状を授与する。
- (2) A・B（C）決勝を行う種目は、A決勝出場者のみ表彰の対象とする。
- (3) 表彰式は1～8位入賞者に対して行う。トラック競技の入賞者は成績発表後、正面スタンド出入口北側に集合すること。フィールド競技の入賞者は審判の誘導・指示にしたがう。

12 入場制限について

- (1) 監督・コーチ・保護者・応援選手のスタンドへの入場は、競技場外にある階段より入場すること。また、競技場内に入場することはできない。選手がスタンドに上がる場合も、競技場外から入場すること。

13 その他

- (1) 記録発表について
記録の掲示は行わない。アナウンス及びWEB記録速報で発表する。なお、記録発表のアナウンスが行われた時刻を正式発表の時間とする。
- (2) 横断幕の設置は、認めない。
- (3) 氏名・所属等の訂正は、本部に申し出る。
- (4) 400mまでのレーン使用の競技では、フィニッシュ後も安全確保のために、自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走り、減速し止まること。逆走の場合は直走路を走り減速する。
- (5) リレーは、バトンを渡し終わってもすべてのチームが通過するまで自分のレーン内にとどまる。
- (6) 更衣室は更衣のみに使用し、荷物は置かないようにする。更衣後の荷物は、各自で管理する。
- (7) 貴重品類は、各自で保管する。万一の事故があっても、責任は負わない。
- (8) 応急処置を必要とする事故が生じたときは、近くの審判員またはトレーナーに声をかけ、医務室において処置を受ける。なお、応急処置後の治療は、本人負担とする。
- (9) リレーのマーカーは、安全のため立体物は使用しないこと。
- (10) 清掃・ゴミ処理は、各学校、各自で責任もって行い、環境美化に努める。
- (11) 現在、瑞穂北陸上競技場のコースの舗装が暑さのために悪くなる場合がある。一部のコースが使用できなくなった場合は、組み換えを行う場合がある。

※ 全国大会の標準記録を突破した選手の団体の代表者は、全国大会受付室（北陸上競技場西側スタジオ）で担当より必要書類を受け取ってください。

該当する団体の代表者、少なくとも1名は、7月27日（日）の県総体終了後（延期された場合は28日）に、パロマ瑞穂宿泊研修室において監督会議を行うので、必ず出席してください。

全国大会の申し込み関係、宿泊、当日までの流れについての説明を行います。事前に配付した資料をお持ちください。